

## 2020年 年末手当交渉

本部は10月30日、収入動向の交渉を行いました。以下、報告します。

まず、営業部から、2020年度上半期営業成績と2020年9月の営業成績を説明。

### 収入動向

#### 「2020年度上半期 収入動向 対計画△1,287百万円（97,8%）」

コンテナは、新型コロナウイルス感染症による景気低迷の影響を受け、積合せ貨物およびエコ関連物資を除く全ての品目で計画を大きく下回った。紙・パルプは国内需要の低迷により低調に推移したほか、化学工業品、化学薬品、自動車部品は自動車産業の低迷による影響を受け大幅な減送となった。食料工業品は、清涼飲料水の現地生産化および外食産業向けのビールの輸送等が低調に推移した。コンテナ全体では、計画比97,7%となった。

車扱は、緊急事態宣言に伴う外出自粛の影響で、石油の輸送が大幅に減少し、車扱全体では、計画比98,6%となった。コンテナ・車扱の合計では、計画比97,8%となった。

#### 「2020年度上半期 対前年△7209百万円（88,7%）」

コンテナは新型コロナウイルス感染症の影響により、エコ関連物資、積合せ貨物を除く全ての品目で前年を大きく下回った。紙・パルプは各社販売不振に伴う減産により対前年△1,427百万円となった。化学工業品、化学薬品は合成樹脂やタイヤ原料等の需要減により対前年△1,378百万円となり、自動車部品は相次ぐ自動車工場の稼働停止や生産調整の影響により対前年△571百万円となった。食料工業品は清涼飲料水の地産地消やコロナウイルスによる外食産業向けの販売不振の影響等を受け対前年△935百万円となった。一方、積合せ貨物は+19百万円、エコ関連物資は+36百万円と堅調に推移し、コンテナ全体では、対前年△6,378百万円（88,9%）となった。

---

車扱は、石油が外出自粛の影響により大幅に減少し、車扱全体では、対前年△830百万円（86,8%）となった。

#### 「2020年度上半期 輸送量動向」

コンテナは、新型コロナウイルス感染症に伴う需要低迷、令和2年7月豪雨、及び台風10号等の影響を受け、エコ関連物資を除く全ての品目で前年を下回った。特に紙パルプが国内需要の低迷で大幅減となったほか、食料工業品は外食産業向けビール類や、地産地消が進む清涼飲料水の輸送が減少した。また、自動車部品は販売不振に伴う工場の稼働制限により減送となり、化学工業品・化学薬品は自動車や紙製品の原料及び樹脂等が低調で前年を下回った。一方、エコ関連物資は建設発生土や焼却灰等の輸送が順調で前年を上回った。また、積合せ貨物はコロナ禍における企業間物流の低迷により前年を下回るも、モーダルシフトの進展やEC需要増もあり他品目に比べると下げ幅が小さかった。結果、コンテナ全体では前年比86,2%となった。車扱は、石油が外出自粛に伴い低調に推移し、車扱全体では前年比85,9%となった。コンテナ、車扱の合計では、前年比86,1%となった。

#### 「2020年 9月営業成績 対計画△222百万円（98,0%）」

コンテナは、新型コロナウイルス感染症による需要低迷や台風10号等の影響により、エコ関連物資、積合せ貨物、自動車部品以外の全ての品目で計画を下回った。紙・パルプは各社販売不振により大幅減となったほか、化学工業品、化学薬品は紙製品の原料及び樹脂等が発送減となった。食料工業品は外食産業向けが低調に推移し、コンテナ全体では、計画比97,5%となった。車扱は、石油が一時的な発送増があり、車扱全体では計画比102,8%となった。コンテナ・車扱の合計では、計画比98,0%となった。

#### 「2020年9月営業成績 対前年△857百万円（92,6%）」

コンテナは、紙・パルプが販売不振に伴う各社生産調整により対前年△169百万円となったほか、紙製品の原料及び樹脂等の需要減により化学工業品は△114百万円、化学薬品は△87百万円と減送した。また、食料工業品は清涼飲料水やビール類の地産地消や外出自粛に伴う販売不振等により△113百万円と前年を下回った。一方、積合せ貨物はEC需要増やモーダルシフトの進展により+31百万円、エコ関連物資は建設発生土や焼却灰等の輸送が順調で+15百万円と堅調だった。また自動車部品は、△20百万円と前年未達となるも荷量は回復傾向にある。コンテナ全体では、対前年△696百万円（93,3%）となった。車扱は、石油の国内需要の落ち込みが継続したほか、セメントが低調で車扱全体では対前年△162百万円（86,0%）となった。

---

---

## 「2020年9月 輸送量動向」

コンテナは、新型コロナウイルス感染症に伴う需要低迷、及び台風10号等の影響によりエコ関連物資・積合せ貨物を除く全ての品目で前年を下回った。紙パルプが国内需要の低迷に伴い大幅減となったほか、化学工業品・化学薬品は紙製品の原料及び樹脂等が減送となった。食料工業品は、外食産業向けビール類や自動販売機での販売が不振である清涼飲料水の輸送が減少した。一方、エコ関連物資は建設発生土や焼却灰等の輸送が順調であるほか、積合せ貨物は関西地区を中心に堅調となっており前年を上回った。また、自動車部品は前年割れが続くが引き続き回復傾向にある。結果、コンテナ全体では前年比91,4%となった。車扱は、石油が外出粛に伴い低調に推移し、車扱全体では前年比86,1%となった。コンテナ、車扱の合計では、前年比89,9%となった。

組合・新型コロナウイルス感染症拡大の影響がどこまで続くか不透明であるが、収入確保のため営業部が取り組んでいることを具体的に教えて頂きたい。会社・輸送量の落ち込みを食い止め荷量を確保すべく、緊急的に戦略的運賃を設定する増送施策を行っている。また、比較的に影響が少ない「積合せ貨物・食料工業品・Eコマース企業」を主たるターゲットとし、Teams等のオンラインを活用、お客様とのコミュニケーションを図りながら「勉強会」の実施している。

組合・10月改定計画で2020年度経常収支を1億円としたが、今後も相当厳しい状況が続くと予想しての数値か。

会社・徐々に荷量が回復し、3月でコロナウイルスの影響がほぼなくなる想定に基づいて作成した。よって10月以降、計画値も右肩上がりとなっている。お客様の動向を勘案すると、11月以降非常に厳しい状況を想定している。

組合・東京レールゲートWESTの状況はどうか。また、東京レールゲートEASTは予定通り、2022年度完成に向け進んでいるのか。コロナウイルス感染症拡大により、完成予定時期の変更はあるのか。EAST建設にあたり汚染された土等も含め、問題点等は出ていないのか。

会社・東京レールゲートWESTは今年度上期の段階で未契約が2区画残っていたが、その内、1区画は決まり10月から賃料が入る。現在、残り1区画について営業活動と共に今年度の穴埋めを行っている。通年、満床で約10億円となるが、上期に2区画空いたことで、マイナスとなった。また、契約時に1~2ヶ月間は「無料」という契約もあり今年度の収入は低めとなる。東京レールゲートEASTについては、2022年度の完成に向けて順調に進んでいる。汚染については、現時点、特別な問題は出ていない。

---

---

組合・今後、輸送障害が起きやすい冬期に入っていくが、私達は安全安定輸送に努めていく。厳しい状況であることは認識しているが、営業部として頑張ってもらって、この困難を打破して頂きたい。

会社・多くの方の協力により、日々の営業活動が出来ている。また、日々において安全安定輸送が保たれていることに感謝している。これからも貨物鉄道輸送を発展させるべく、協力し合いながらJR貨物を盛り上げていきたい。

### 「ここからは、総務部」

組合・会社の状況は厳しいと理解するが、組合員は昼夜を問わず懸命に安全安定輸送を遂行している。期末手当においては、鉄道事業黒字を確保した年度においても、低調な結果で、新人事賃金制度においても不安や不信感が多くあり、会社に対し相当の不満が溜まっている。2023中期経営計画を達成するためには、組合員の協力が不可欠なことは重々承知していると思うが、この困難を労使が一体となって打破し、会社が成長・発展していくためにも、次回の交渉（会社の考え）では、誠意ある考えを強く求める。

会社・コロナ禍で、特に現場の皆様には指定公共機関としての使命を果たしてもらっており改めて感謝している。一方、収入状況も厳しいという現実もある。人事制度についても様々課題があり、良い制度にするための議論も重ねていきたい。次回の交渉（会社の考え）まで、貴組合の主張を受け止め社内で議論していく。

以上

---